

稲美町 1人1台端末の利活用に係る計画

1 1人1台端末を始めとする ICT 環境によって実現を目指す学びの姿

「第4次いなみ教育プラン（稲美町教育振興基本計画）」（令和7年3月 稲美町教育委員会）において、重点目標及び重点事項を以下のとおり設定した（一部抜粋）。

重点目標 教育 DX の推進

教育 DX の推進は、教育現場におけるデジタル技術の活用を通じて、学びの質や効率を向上させる取組である。ICT の導入により、個別化学習や遠隔教育が可能となり、学習者一人一人のニーズに応じた教育が実現する。また、教師にとっても授業準備や評価業務の効率化が進み、教育の質を維持しながら負担軽減が期待されるとともに、データ活用による学習分析や効果的なカリキュラム作成が進み、教育の質の向上が見込まれる。未来の教育環境を形成し、次世代の学びを支える重要な改革として環境の整備等を推進する。

重点事項

（1）1人1台端末の活用

① 1人1台端末の環境整備

端末の計画的な更新、ネットワークアセスメントの継続的な実施を行うことで児童生徒の学習環境の整備に努める。

② デジタル教材活用の推進

各教科の特質や、探究的な学習等、活用の場面にも留意しつつ、教材や教科書のデジタル化を推進し、端末を通じてアクセスできるようにするなど1人1台端末活用の「日常化」に努める。

（2）情報活用能力の育成

① 情報活用能力の育成

児童生徒が情報通信ネットワークや1人1台端末等の ICT 機器の効果的な活用を通して、「情報活用の実践力」「情報の科学的な理解」「情報社会に参画する態度」の3点を意識し、発達段階に応じて情報活用能力を育成する。

② ICT 環境の充実、情報セキュリティの徹底と安全安心な情報管理の推進

情報活用能力を育成するため、各教科等の年間指導計画に、ICT 機器の活用を位置づける。また、コミュニケーションツールの利用拡大に伴う、個人情報取り扱いや著作権等の権利を尊重することの重要性を正しく認識する学習活動を充実させる。

2 GIGA 第1期の総括

GIGA スクール構想第1期は、本町教育のデジタル化を大きく前進させた。1人1台端末の整備は、児童生徒の情報活用能力育成の基盤を確立し、個別最適・協働的な学びの

実現に向けた大きな一歩となった。クラウド環境の整備により、校内ネットワークの安定化と情報共有の促進が図られ、教員の働き方改革にも貢献したと言える。デジタル教材や学習ツールの導入は、授業の質の向上と多様な学びの提供を可能にし、児童生徒の学習意欲を高める効果も確認された。

しかしながら、いくつかの課題も明らかになった。まず、端末の利活用においては、教員のスキル差や活用頻度の偏りが依然として存在する。効果的な活用事例の共有や研修機会の充実が不可欠である。また、情報セキュリティ対策の強化も継続的な課題であり、児童生徒の情報モラル教育の充実も急務である。さらに、端末の故障や不具合への迅速な対応、費用対効果の高い運用体制の構築も重要な課題として認識している。

今後は、これらの成果と課題を踏まえ、第2期においては、端末の更なる有効活用に向けた教職員の指導力向上、情報セキュリティ対策の徹底、持続可能な運用体制の確立に重点的に取り組む。GIGA スクール構想の理念である「多様な子どもたちを誰一人取り残すことなく、子どもたち一人一人に公正に個別最適化され、資質・能力を一層確実に育成できる教育 ICT 環境の実現」に向け、教育委員会、学校、家庭、地域が連携し、より質の高い教育環境の構築を目指す。

3 1人1台端末の利活用方策

本町では、教職員及び児童生徒が1人1台端末の活用を「日常化」するよう取り組むとともに、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図っていく。そのために、児童生徒1人1台端末環境の継続をはじめ、働きがいのある学校づくりを進めるため、円滑で安全な ICT 環境の整備・充実を図る。

(1) 1人1台端末の積極的活用

各教科の特質や探究的な学習等、活用の場面に留意しながら、小・中学校9年間を通じて1人1台端末の活用を「日常化」する。また、より効果的に活用できるよう、教職員の ICT 活用指導力の向上やデジタル教材などのコンテンツの充実に取り組む。

(2) 個別最適・協働的な学びの充実

リーディング DX スクール事業などの実践事例を共有し、従来の授業を見直すことで、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させ、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を推進する。

(3) 学びの保障

児童生徒の心身の状況把握や教育相談に加え、登校が困難な児童生徒への学習指導に活用する。